生きるために、喰う。

押井守 作品

真・女立喰師列伝

Shin-Onna Tachiguishi Retsuden

女優をいかに美しく撮るか。
それが、この作品の最大のテーマ。
「立喰師」という器を使って、
いろんなことに挑戦していきたい。

監督・原作・総監修
押井 守

押井守 作品

真・女立喰師列伝

Shin-Onna Tachiguishi Retsuden

2007年・第20回東京国際映画祭 日本映画・ある視点部門 公式出品作品

製作:ジェネオン エンタテインメント　制作・配給:デイズ

www.deiz.com/onna/

INTRODUCTION

『GHOST IN THE SHELL -攻殻機動隊-』『Avalon』『イノセンス』等で知られる世界的クリエイター・押井守監督が創り出した、立喰いによる無銭飲食を生業とする架空の仕事師＝≪立喰師≫。

『うる星やつら』ほか数多くの自作に脈々と登場させてきた、同監督のライフワークとも言えるモチーフで、06年には歴代の立喰師をめぐる虚実入り混じった昭和史を描く、スーパーライヴメーション（デジタル写真を3DCGアニメーションとして動かす映像技法）による異色作『立喰師列伝』が完成。続く同年の雑誌付録用短編映像『女立喰師列伝 ケツネコロッケのお銀 -パレスチナ死闘篇-』をステップに、07年、構想も新たに、美しき女立喰師たちを主役にしたユニークな実写映画が誕生した。

生きるために、喰う。
6人の女優、6つのエピソード。
美しきヒロインたちが仕掛けた華麗な罠――

「女優さんを美しく撮るのが、この作品の一大テーマ」と押井監督本人が明言するように、どのエピソードにも"女優愛"が横溢。全編を貫くユーモアと、エンタテインメントに徹した作りも含めて、本作は、同監督のフィルモグラフィー中でもきわめて異彩を放つ一編となった。

監督は、押井守、神谷誠、神山健治、辻本貴則、湯浅弘章の総勢5名。

主演は、ひし美ゆり子、佐伯日菜子、小倉優子、安藤麻吹、水野美紀、藤田陽子という豪華な顔ぶれ。

原作・総監修のほか押井監督自身が6作品中2作品のメガホンをとったのに加え、特撮やアニメーションの分野ですでに活躍中の監督や、押井監督がその実力を認める若手たち4人の監督が≪立喰師≫というフィールドに初挑戦、新鮮な息吹きを吹き込むことに成功している。

気鋭のクリエイターと魅惑の女優陣がおくる、秀作揃いのオムニバス映画――それが、この『真・女立喰師列伝』である。

音楽は、押井作品になくてはならないコンポーザー・川井憲次が担当。また、期待のアーティスト《樹海》が歌う、ポップで切れのいい主題歌「ヒメゴト」と、エンディングテーマ「孤城の月」も話題。

長年の友人であるスタジオジブリ代表取締役の鈴木敏夫氏がオープニングの題字を手がけ、第1話『金魚姫　鼈甲飴の有理』に友情出演（および声の出演）しているのも、押井監督からのファンへの"目くばせ"と言えるだろう。

押井監督演出、兵藤まこ出演によるクールでスタイリッシュなオープニングに始まり、ラブストーリー、文芸ドラマ、ブラックコメディ、西部劇、SF等々……

さまざまなジャンルのエピソードが＜特盛り＞になった極上エンタテインメントを、たっぷりご賞味いただきたい。

なお、本作は、07年10月開催の第20回東京国際映画祭「日本映画・ある視点」部門に公式出品され、好評を博した。

押井守作品における《立喰史》

ある時は出された料理（ファストフード）に何だかんだとイチャモンをつけ、またある時は詭弁を弄し、蘊蓄をたれ、その結果、つつましい無銭飲食を完遂するという、プロフェッショナルに徹したゴト師＝《立喰師》たち。押井守作品におけるその歴史は非常に古く、始点は、はるか20数年前に遡る。

現在確認されている最古の立喰師登場作品は、タツノコアニメのタイムボカン・シリーズ『ヤットデタマン』（81年）で、立喰いの竜と名乗るソバ屋店主と立喰師の一団が登場。続く『逆転イッパツマン』（82年）では、ケツネコロッケのお銀が早くもその姿を見せる。かのヒットアニメ『うる星やつら』では、サブタイトルも勇ましい「必殺!立食いウォーズ!!」（第122話、84年）に、お銀をはじめケツネタヌキの竜（お銀の師匠）、牛丼の牛五郎、ハンバーガーの哲、中辛のサブ、クレープのマミらが大挙出演し、盛大な立喰いバトルを繰り広げる。また、立喰師そのものが登場しないまでも、立喰いにまつわる舞台設定が愛着を込めて作品に刻印されていることも多く、劇場版『うる星やつら　ビューティフル・ドリーマー』（84年）で、さびれた立喰いソバ屋マッハ軒が、実は戦闘機ホーカー・シドレー・ハリアーの秘密基地だったことをご記憶の方も多いだろう。

『紅い眼鏡』（実写、87年）では月見の銀二、『御先祖様万々歳!』（90年）では哭きの犬丸、『機動警察パトレイバー』（新OVA、91年）では冷やしタヌキの政が、それぞれ登場。そして、立喰師映画の集大成とも言える『立喰師列伝』（06年）では、銀二、お銀、犬丸、政、牛五郎、哲、サブの立喰いオールスターズに加えて、フランクフルトの辰、店主品田、神山店長らが総結集した。続く、外伝風短編映像『女立喰師列伝 ケツネコロッケのお銀 -パレスチナ死闘篇-』（06年）では、パレスチナに渡ったお銀の娘が、母親と瓜二つの姿を見せる。

そして、今回の『真・女立喰師列伝』では、お銀、マミ、神山店長といった既出キャラのほか、鼈甲飴の有理、バーボンのミキ、学食のマブ、氷苺の玖実、ケンタッキーの日菜子といった新キャラが登場し、まさに百花繚乱の賑やかさ。

本作がこれまでの作品と大きく異なるのは、それらがすべて女性キャラクターだという点である。「女優をきれいに撮る」という押井監督の企みにのって、他の4監督もそれぞれ個性的なキャラクターを創出した。

「女」だから……「女」であるがゆえに……そのゴトぶりには、そこはかとない——あるいは濃厚な——エロティシズムが香るのはむろんのこと。主題歌「ヒメゴト」の題名と歌詞が、「ヒメ（姫）」の「ゴト（仕業）」というように、妖しく秘めやかな響きを伴って聞こえてしまうのは、偶然だろうか?

「立喰史」に新たに起きた変革。

昭和から平成、そして未来に向けて、彼（彼女）らはどう変わり、どんな新しいゴトを披露してくれるのか……?

立喰師サーガは、実は、今始まったばかりなのである。

参考資料：押井守著・「立喰師、かく語りき。」／「立喰師列伝」DVDブックレット／ほか

金魚姫 鼈甲飴の有理

Princess Goldfish／Yuri the Bekko-Candy

監督：押井守　主演：ひし美ゆり子

巧みな話術と身体に彫った金魚の刺青を武器に、縁日の飴屋店主に賭けを挑むという"伝説の女立喰師"と、彼女の現在のゆくえを捜し歩くカメラマン。『ウルトラセブン』のアンヌ隊員役で知られるひし美ゆり子、32年ぶりの映画主演が、彼女の長年のファンである押井監督の熱望で実現。美的で透明感のあるカメラワーク。一瞬一瞬、静謐なる迫力に満ちた展開。押井監督がエロティシズムというテーマに初めて正面から向き合った、記念すべき一編。

フリーカメラマンの坂崎一は、伝説の立喰師「鼈甲飴（ベッコウアメ）の有理」を探し求めて、今日も縁日の雑踏の中を徘徊していた。彼女は、高度成長期に出現した伝説のゴト師であり、飴細工の店で、主人に金魚の細工を求め、それが意に適う出来であれば自分の肌に入れた金魚の刺青を進呈し、適わざれば店の飴すべてを持ち去る……という勝負を挑んだという。

坂崎は、雑誌「戦後思想」編集長の鈴木敏夫から、有理が伊豆半島の某市にいるらしいとの情報を得て、同地に飛ぶ。裏ぶれた温泉街の路地を抜け、とある古風な日本家屋に着くと、緑の樹々が美しい庭に面した座敷に、彼女はいた。粋な絽の着物を着こなし、障子にもたれてコップ酒をかたむけるその女は、背中の金魚を撮影したいという坂崎の申し出を受けて立つが……。

荒野の弐挺拳銃 バーボンのミキ

The Drunk and the Dead／Miki the Bourbon Seeker

監督：辻本貴則　主演：水野美紀

その美貌と華麗なガンさばきで男たちを圧倒する立呑師・バーボンのミキ。架空の時代、架空の町に展開する、ガン&ボディ・アクションとコミカルテイストが融合した、立喰師史上初の痛快ウエスタン。ヒロインのミキには、日本映画界で稀有な“アクションを演じられる女優”水野美紀が扮し、スタントなし、ワイヤーなし、文字通り体当たりで役に挑む。監督は、ガンアクション演出では日本で三指に入ると押井監督も認める、『KILLERS』などの辻本貴則。

いつとも知れぬ時代――砂嵐吹きすさぶアリゾナ州ジャップタウン。ここは、暴力が支配する町。とある酒場のテーブル席で、美しい女・ミキが常連客と酒の呑み比べの勝負をしていた。女は「早撃ちのミキ」と呼ばれるさすらいのガンマンで、この店に秘蔵されていると言われる“幻のバーボン”を目当てにやって来たのだった。

酒に酔った勢いでからんできた客に威嚇発砲したミキに対して、署長のフランコと保安官のヒロは、この町では風情のない自動式拳銃は所持禁止だと迫る。暴力で町を支配し、住民たちに圧政を強いてきた二人に、「酒もケンカも、男には絶対負けない」と宣言するミキは勝負を挑む。早撃ち同士の壮烈なガンファイトが、今、幕を開けた。

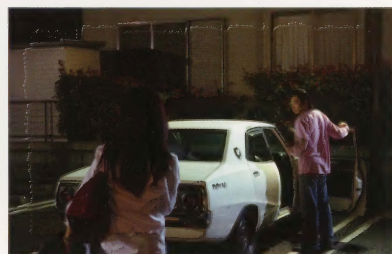
Dandelion 学食のマブ

Dandelion／Mabu the Poker-Faced Actress

監督:神山健治　主演:安藤麻吹

前作『立喰師列伝』での立喰師たちとの死闘で身も心も疲れ果てた神山店長は、立喰師の襲撃を受けることのないファミレスに転職を果たす。だが、ある夜の午前0時、彼の店に美しい女性客が現れて……。本作品中随一のスリリングでリリカルなラブストーリー。テレビアニメ『攻殻機動隊　STAND ALONE COMPLEX』『精霊の守り人』の神山健治監督が、実写映画を初演出。マブ役には、『精霊の守り人』のヒロイン・バルサ役でも神山監督と組んだ安藤麻吹。

1981年。予知野屋とロッテリアの店長として手強い立喰師たちと死闘を演じた神山店長は、身も心も疲れ果てて、立喰師のターゲットたり得ないファミレスの店長として外食産業に復帰していた。だが、一時安定したかに見えた神山の日常を破るように、彼女は現れた。毎夜午前0時になると来店、一輪のタンポポをお冷のグラスに挿し、コーヒー一杯だけを注文するその女は、神山の大学時代のクラスメートで、男子学生から昼食をゴトすることで「学食のマブ」と異名を取る女立喰師だった。神山の胸に去来する、彼女とのある思い出……。

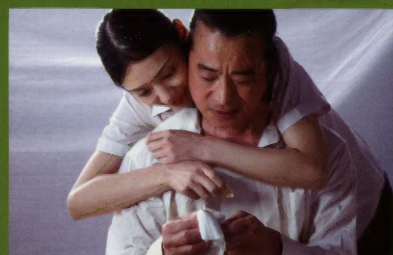
しかし、彼女の行動に犯罪の匂いを察知した神山の目の前で、物語は、予想もしない方向に転がり出してゆく……!

草間のささやき 氷苺の玖実

Whispers in the Grass／Kumi the Strawberry Frappe

監督：湯浅弘章　主演：藤田陽子

風に揺れる一面の唐黍畑……時が止まったような自然の中、妖しい美しさで通りすがりの男たちを惑わせる玖実。立喰師史上、ほとんど語らずして色香を武器に食べものをゴトするヒロインが初登場。押井監督がその映像センスに太鼓判を押す期待の新鋭・湯浅弘章監督が、玖実役に藤田陽子という逸材を得ておくる、本オムニバス作品中の異色編。エロティックで、摩訶不思議なムードあふれる美的映像詩。

大人の背丈も超えるほどに伸び、波のように静かに揺れる広大な唐黍畑の中に、その女——玖実はいた。通りかかる菓子業者の男たちを妖しい美しさで惑わせては畑へと導き、なぜか金銭ではなく、その商品ばかり奪う玖実。彼女は、畑の主人である光男という初老の男に雇われ、畑に建つ小さな堂の中で彼の身の回りの世話をしていた。

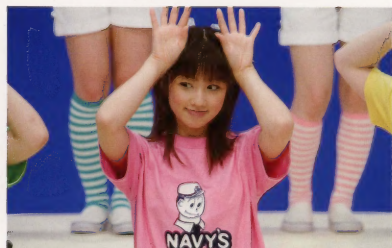
ある日、かき氷屋の精悍な青年・由起夫が畑を通りかかる。かき氷は、幼い頃から玖実にとって特別な食べものだった。玖実に気づいた由起夫が氷苺を差し出すと、玖実はそれを受け取ることなく、恥じらいながら、いつもとは違う眼差しを彼に注いで畑の奥へと消える。彼女を追って畑へと足を踏み入れる由起夫。それは、甘くて不思議な“ひととき”と悲劇の始まりだった……。

歌謡の天使 クレープのマミ

The Pop Music Angel／Mami the Crepe Mania

監督：神谷誠　主演：小倉優子

80年代、原宿のクレープ屋に現れた美少女マミが語る、「虚実入り交じったもう一つの昭和史」。『ゴジラ モスラ キングギドラ　大怪獣総攻撃』『亡国のイージス』『日本沈没』などの特撮監督として知られる神谷誠が、多彩な映像ギミックと大量のナレーションを駆使して描く、シニカルでブラックユーモアあふれる娯楽大作風（?）立喰師列伝。マミ役には、神谷監督が「彼女以外考えられない」とシナリオを当て書きし、出演を熱烈にラブコールした小倉優子。

1985年、東京・原宿。当時若者文化の中心だったこの街の、竹下通りにあるクレープ屋店長・岡林のもとに、あどけない笑顔の美少女・マミが現れた。アイドルの卵を自称する彼女は、岡林に、「テレビばっかり見てるとバカになりますよぉ～」と警告する。無銭飲食の常習者として手配され、怪しげな男たちに追われているマミ。夜、空腹でよろめくマミを大量のクレープで救った岡林は、いったい誰に追われているのかと彼女を問いつめる。

「この話を聞いてしまったら、もう後戻りはできない」と断った上で、マミが真顔で語ったのは、戦後日本におけるテレビジョンの爆発的普及と数々のアイドル神話の影に隠れた、恐るべき“真実”。それは──占領軍による《3R5D3S政策》に端を発する、巨大な陰謀だった……。

ASSAULT GIRL ケンタッキーの日菜子

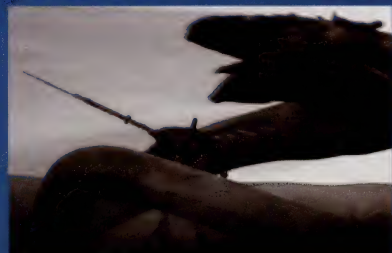
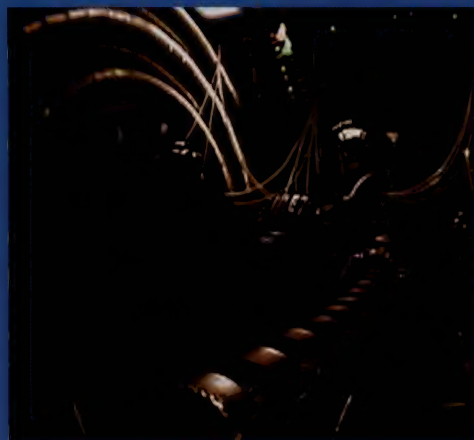
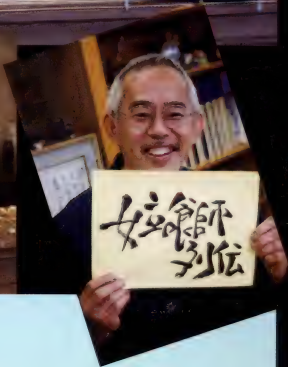
ASSAULT GIRL／Hinako the Kentucky

監督：押井守　主演：佐伯日菜子

成層圏から巨大降下猟兵に乗って地球に降り立つ女大佐（カーネル）。かつて「ケンタッキーの日菜子」と呼ばれる凄腕立喰師だった彼女の、地球行の目的は何か……？　本映画のラストを飾るのは、戦艦やメカなどへの押井監督のフェティシズムが炸裂する異色SF編。主演は、同監督が10年来起用したかったという佐伯日菜子。佐藤敦紀によるVFX、鬼頭栄作による降下猟兵のデザイン、竹田団吾によるヒロインの戦闘スーツも大きな見どころである。

AD 2052。地球衛星軌道上を周回する強襲揚陸艦「龍攘 II」から、多数の巨大降下猟兵「FsJ87 “Temjin”（天人）」が地球に向けて射出された。その中の一機のパイロットで、仲間うちで大佐（カーネル）と呼ばれる日菜子は、かつては「ケンタッキーの日菜子」という名の凄腕の立喰師だった。

大気圏突入後、敵の攻撃を受け、次々と火の玉になり散ってゆく僚機群。ミサイルとビームの雨をくぐり抜け、轟音とともに逆噴射した日菜子機は、機体の一部を損傷しつつも、かろうじて地表に降りたつ。息つく間もなく襲い来る、巨大生物兵器スナクジラ。迎撃に成功した日菜子は、戦火のために砂漠と化した無人の地表を、独りさまよい歩く。そして、霧につつまれた荒野の果てに、彼女が見たものは——？

女立喰師列伝

ACTRESSES

(上映エピソード順)

●ひし美ゆり子（「金魚姫　鼈甲飴の有理」）：

1947年、東京都生まれ。65年、ミス東京セニョリータ準優勝をきっかけに女優の道に入る。東宝映画『パンチ野郎』（66年）で映画デビュー。67年に出演したテレビ特撮シリーズ『ウルトラセブン』の友里アンヌ隊員役などで、現在でも熱狂的なファンを持つ。72年、フリーに。代表作に、映画『鏡の中の野心』（72年）、『忘八武士道』（73年）、『好色元禄㊙物語』（75年）、テレビ『37階の男』（68年）、『プレイガール』（73年）、『手紙　殺しへの招待』（75年）など多数。最近作に『シルバー假面（第参話・鋼鉄のマリア）』（06年）。エッセイ集や写真集、ブログなど多彩な活動を続けているが、本作『真・女立喰師列伝』出演は、大のひし美ファンである押井監督の熱望によるもので、実に32年ぶりの映画主演となった。

●水野美紀（「荒野の弐挺拳銃　バーボンのミキ」）：

1974年、三重県生まれ。大森一樹監督、SMAP主演の『シュート!』（94年）で映画デビューして以来、『大失恋。』（95年）、『ガメラ2 レギオン襲来』（96年）、『踊る大捜査線 THE MOVIE』（98年）、『踊る大捜査線　THE MOVIE 2　レインボーブリッジを封鎖せよ!』（03年）など、次々と話題作に出演。テレビ『女子アナ。』（01）主演ほか、CMも多数。10代のころ倉田保昭にアクションを学んだという日本映画界に稀有な"アクションのできる美人女優"としての才能は、そのスレンダーな容姿の魅力と共に、本作『真・女立喰師列伝』のバーボンのミキ役の演技と体技に200%活かされている。近作に、『口裂け女』（07年）など。すでに撮影を終えた香港映画『さそり』のほか、『あの空をおぼえてる』（共に08年公開予定）が待機中。

●安藤麻吹（「Dandelion　学食のマブ」）：

1969年、福岡県生まれ。俳優座研究所に3期生として所属後、91年、劇団俳優座に入団。「さりとはつらいね」（91年、三木のり平演出）以来、数々の舞台を踏むほか、『ダ・ヴィンチ・コード』『Mr. & Mrs.スミス』『007／ダイ・アナザー・デイ』などの外国映画や外国テレビシリーズの吹き替え、アニメのアフレコなども多数こなす。プロダクションI.G制作、神山健治監督によるNHKテレビアニメの話題作『精霊の守り人』（07年）でヒロインのバルサ役（声）を演じて好評。本作『真・女立喰師列伝』での学食のマブ役は、息の合った神山監督とのコラボレーションによって創り出された、キュートでありながら一癖も二癖もあるという、出色のヒロイン像といえよう。

●藤田陽子（「草間のささやき　氷苺の玖実」）：

1980年、奈良県生まれ。女優、CMタレントとして主に活躍。映画『模倣犯』（02年、森田芳光監督）、『イン・ザ・プール』（05年、三木聡監督）、『DEATH TRANCE』（06年、下村勇二監督）、『闘茶』（王也民監督、08年公開予定）などや、テレビ『LOVE LOVE あいしてる』（99年）、資生堂CMなどに多数出演するほか、歌手としてCDもリリースしている才媛。『真・女立喰師列伝』での氷苺の玖実役は、全エピソード中唯一オーディションが行われ、満場一致で決定。清楚かつ透明なエロティシズムが香り立つ好演で、玖実という難役を見事にこなした。

●小倉優子（「歌謡の天使　クレープのマミ」）：

1983年、千葉県生まれ。トップクラスのグラビアアイドルとして絶大な人気を誇り、テレビバラエティ、CM、ラジオ、ブログ執筆などでも活躍中。「こりん星から来た」という自身による設定と、「ゆうこりん」の愛称で知られるユニークな"不思議系"キャラクター。『真・女立喰師列伝』でのクレープのマミは、神谷監督が当初から「この役をできるのは彼女しかいない」と確固たるイメージを持ってシナリオを執筆。その期待に応えて小倉優子は、大量のクレープを食べるシーンに胃もたれを起こしながらトライし、難解で膨大な量のナレーションをアフレコで見事にこなすなど、映画女優としても骨のあるところを見せた。

●佐伯日菜子（「ASSAULT GIRL　ケンタッキーの日菜子」）：

1977年、奈良県生まれ。94年、大島弓子原作、金子修介監督による『毎日が夏休み』のオーディションに受かり映画デビューし、日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。『静かな生活』（95年）、『らせん』（98年）などに出演し、『エコエコアザラク』（97年、映画、テレビ）の黒井ミサ役でホラーファンの間にカルト的な人気を呼ぶ。本作『真・女立喰師列伝』でのケンタッキーの日菜子役は、押井監督によるプロット段階からのいわゆる"当て書き"。特殊なパイロットスーツに身を包み、全編ほとんど無言のヒロインは、そのエキゾティックでスレンダーな容姿と不思議なSF的存在感を持つ彼女ならではのはまり役である。

DIRECTORS (50音順)

押井守監督(中央)を囲んで、左より、神谷誠、湯浅弘章、神山健治、辻本貴則の各監督

●押井守

(原作/総監修/「金魚姫　鼈甲飴の有理」「ASSAULT GIRL　ケンタッキーの日菜子」監督・脚本)：

1951年、東京都生まれ。大学在学中から自主映画を制作。77年、タツノコプロダクションに入社。80年、スタジオぴえろに移籍。数々のテレビアニメに携わり、84年、同社を退社。83年『うる星やつら オンリー・ユー』で、劇場映画初監督。以降、『うる星やつら2 ビューティフル・ドリーマー』(84年)、『機動警察パトレイバー 劇場版』(89年)、『機動警察パトレイバー2 the Movie』(93年)など、数々の劇場作品の話題作を手がける。

95年の『GHOST IN THE SHELL　攻殻機動隊』は、日米英で同時公開され、『タイタニック』(97年)のジェームズ・キャメロン監督や、『マトリックス』(99年)のウォシャウスキー兄弟ほか、海外の著名監督に大きな影響を与え、全米セルビデオチャート1位獲得という快挙を成す。『イノセンス』(04年)では、日本のアニメーションとして初めてカンヌ国際映画祭コンペティション部門に正式出品されるなど、国際的作家として活躍を続ける。

また、『紅い眼鏡』(87年)、『ケルベロス 地獄の番犬』(91年)、『Talking Head トーキング・ヘッド』(92年)、全編をポーランドで撮影した『Avalon』(01年)など、多くの実写映画作品の監督も務める。

初期アニメ時代から自作に頻繁に登場させてきた、立喰いによる無銭飲食を生業としたプロ=《立喰師》というモチーフの集大成として、06年、デジタル写真を3DCGアニメとして動かすスーパーライヴメーションという手法による異色作『立喰師列伝』を発表。続く、雑誌付録DVD用短編実写映像『女立喰師列伝　ケツネコロッケのお銀　-パレスチナ死闘篇-』(06年)をステップとして、07年、ついに本作、実写オムニバス映画『真・女立喰師列伝』を完成。気鋭の監督陣と華やかな女優陣をコーディネートするプロデューサー的役割を果たすと共に、自らの創作活動に新たな一歩を踏み出す、記念すべき快作となった。08年公開予定の劇場用アニメーション大作『スカイ・クロラ The Sky Crawlers』を現在制作中。

●兵藤まこ

(オープニング出演)：

1962年、東京都生まれ。『天使のたまご』(86年)や実写映画『紅い眼鏡』(87年)などでおなじみ、押井作品のミューズ的存在。『立喰師列伝』(06年)でケツネコロッケのお銀、短編『女立喰師列伝　-パレスチナ死闘篇-』(同)ではお銀とその娘の二役を演じ、本作では、押井監督演出によるオープニングでお銀役として健在ぶりを見せている。

●神谷誠

(「歌謡の天使　クレープのマミ」監督・脚本・編集・VFX)：

1965年、東京都生まれ。川北紘一氏や樋口真嗣氏らの作品の特撮助監督として多数の映画に携わる。『ゴジラ』『ガメラ』各平成シリーズの特撮助監督、『ホワイトアウト』(00年)、『ゴジラ モスラ キングギドラ　大怪獣総攻撃』(01年)の特殊技術、『Avalon』(01年)の特殊助監督などを務めたほか、メイキングビデオやCMも多数演出する。『キューティーハニー』(03年、庵野秀明監督)、『亡国のイージス』(05年、阪本順治監督)、『日本沈没』(06年、樋口真嗣監督)など、錚々たる話題作の特撮監督を経て、本作『真・女立喰師列伝/歌謡の天使　クレープのマミ』で初監督。骨太かつ捻りの効いた構成力・演出力で、堂々たる存在感を見せつけた。現在、次作を準備中。

●神山健治

(「Dandelion　学食のマブ」監督・脚本)：

1966年、埼玉県生まれ。スタジオ風雅を経てフリー。当初は背景および美術監督として活躍、94年ごろからゲームのムービーパートなどの演出で才能を発揮し、美術出身の演出家として注目を集める。『AKIRA』(88年)、『魔女の宅急便』(89年)、『人狼 JIN-ROH』(00年)など多数の劇場作品を経て、『ミニパト』(02年)で初監督。その後、テレビアニメ『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』、『攻殻機動隊 S.A.C. 2nd GIG』、『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX Solid State Society』(02〜06年)を監督、同シリーズのDVDセールスはミリオンを記録。第9回アニメーション神戸個人賞受賞。監督・脚本を手がけたNHKアニメ『精霊の守り人』(07年)のヒロイン役(声)・安藤麻吹と組んだのが本作『真・女立喰師列伝/Dandelion　学食のマブ』で、初の実写演出にも関わらず、センシティブかつ安定した演出力を発揮した珠玉作となった。

●辻本貴則

(「荒野の弐挺拳銃　バーボンのミキ」監督・脚本・撮影・編集)：

1971年、大阪府生まれ。98年に、自主映画制作集団を結成し、精力的に作品を発表。自主映画界で数々の賞を獲得したのち、第6回ガン・アクション・ムービー・コンペティションで受賞したのをきっかけに、同コンテストの審査員である押井監督らプロの映画監督3人と組んだ5話のオムニバス映画『KILLERS』(03年)で商業映画デビューを果たす。近作に、オリジナルDVD『斬人　KIRIHITO』(05年)。そのスタイリッシュで歯切れのいい持ち味は、本作『真・女立喰師列伝/荒野の弐挺拳銃　バーボンのミキ』でも存分に活かされている。プロモーション映像やメイキング等の演出を多数手がけるほか、現在、劇場用映画の新作を企画・準備中。

●湯浅弘章

(「草間のささやき　氷苺の玖実」監督・脚本・撮影・編集)：

1978年、鳥取県生まれ。大学在学中よりミュージック・クリップを監督し、卒業後、林海象監督や押井守監督など数々の作品で助監督を務める。映像制作プロダクションのデイズにて押井監督作品ほかの演出や制作助手などを務める傍ら、自らの監督作品の企画・脚本執筆を続け、06年、第28回ぴあフィルムフェスティバルで入賞、函館港イルミナシオン映画祭の第10回シナリオ大賞でグランプリ受賞。本作『真・女立喰師列伝/草間のささやき　氷苺の玖実』で商業映画デビューを飾った期待の新鋭。また、本オムニバス作品中の多くのエピソードで撮影を担当し、美しい映像を紡いでいることも特筆に値する。

PRODUCTION NOTE

●本作『真・女立喰師列伝』は、『立喰師列伝』(06年)からのスピンオフ作品という側面を持ちながらも、まったく独自の、ユニークな発想と制作プロセスを経て作られている。まず、「女優を美しく撮る」という、きわめてプリミティブであっけらかんとしたテーマに基づいて、各監督が、総監修の押井守監督にプロットと主演女優のプランを提出。初期の構想では女優5人による5話のオムニバスだったが、プロデュースサイドの要望で、1話増やして全6話になり、そのうち、第1話と第6話を押井監督が手がけることに。全体のバランスを見ながらさらに企画が練り込まれ、各話のシナリオがいっせいに執筆された。その結果──各監督から主演女優への"6通のラブレター"とも呼べるような、艶やかな映画が完成したのである。

●押井監督は、『ウルトラセブン』(67年)や70年代東映作品を通じての、大のひし美ゆり子ファン。今回、『金魚姫　鼈甲飴の有理』で彼女の32年ぶりの主演が実現したのも、同監督の粘り強い出演交渉による。撮影現場独特の緊張感が苦手で女優を引退したというほどシャイな彼女への配慮から、刺青を晒すクライマックスシーンの撮影は、監督とカメラマンなど数名だけが現場への入室を許された。なお、撮影に使われた日本家屋は、横浜市青葉区に保存されている一棟。

●「6本もあるのに、1本くらいSFがなくてどうする」という押井監督の意気込みから生まれたのが、宇宙的スケールの第6話『ASSAULT GIRL　ケンタッキーの日菜子』。まるでアイスランドにしか見えない地表シーンのロケは、実は伊豆大島で行われた。撮影当日は予想外の悪天候で、あたり一面の濃霧。だが、その場の判断でカメラを回したことで、CGでもスモークでも表現しえない、壮大で神秘的な霧の惑星が誕生した。「まず、撮ること。カメラを回すことからしか映画は生まれない」という押井監督の考えをそのまま具現化したようなできごとだった。

●『ASSAULT GIRL』のCGを担当したのは、樋口真嗣監督も所属するMotor/lieZ(モーターライズ)のVFXディレクター、佐藤敦紀。宇宙戦艦と降下猟兵「Temjin」に加えて、シナリオにはなかった巨大生物兵器スナクジラまで登場する大サービスぶり。ちなみにTemjinとスナクジラは、ともに押井監督による命名。

●制作は一班体制なので、各話の撮影は、少しずつ時期をずらしながら行われた。まず最初に撮入したのが、辻本貴則監督の『荒野の弐挺拳銃　バーボンのミキ』で、ロケ地は横須賀市の湾岸沿いにある古い倉庫。その2階に西部をイメージした酒場のセットが組まれた。ミキ役の水野美紀はノースタント、ノーワイヤーでアクションを演じ、西部劇では定番のガンスピン(銃を指先でくるくる回す)も、初体験にもかかわらず見る見るうちに覚えるという運動神経の良さを発揮した。

●神山健治監督初の実写作品『Dandelion　学食のマブ』のメインのロケ地は、千葉県佐倉市にあるファミリーレストラン「Big Boy」の訓練センター。店員の養成のために作られた建物なので、店内は本物のファミレスそっくり。テレビアニメ『精霊の守り人』の演出で超多忙の神山監督のスケジュールの合間を縫うため、撮影は土日の夜を中心に行われた。また同監督は、刑務所服役後のシーンのために、トレードマークとも言える長髪をばっさり断髪し、作品への熱意をうかがわせた。

●各エピソードとも、主演女優をイメージしたいわゆる"当て書き"で脚本が書かれたが、『草間のささやき　氷苺の玖実』だけは、脚本完成後に主演女優のオーディションが行われた。清楚なムードの中に芯の強さを感じさせる藤田陽子に、満場一致で玖実役が決定。静岡県周智郡森町の唐黍畑を借りての撮影で、藤田は期待通りに、素晴らしく魅力的なヒロインを演じきった。

●『歌謡の天使　クレープのマミ』は80年代の原宿が舞台だが、クレープ屋のシーンのロケは、世田谷区池ノ上の住宅地の一角にあるマンションの前で行われた。アイドルマニアと評される神谷誠監督は、架空のテレビ番組「たそがれピョンピョン」のシーンで、80年代アイドル風俗の"完全再現"をめざした。リズムも振り付けもいかにも当時ふうの挿入歌「アイドルなんて呼ばないで」での、親衛隊が発する奇声(合いの手)やゼスチャーは、神谷監督自らの入念な指導によるもの。

●真っ白なバックの中に真紅のショールを纏った兵藤まこを映したスタイリッシュなオープニング映像は、渋谷区恵比寿のスタジオで撮影された。地下1階にあるスタジオを事前に下見に行った押井監督が見つけたのは、天井の四角い穴。このスタジオでは、その穴を使って1階の床面から俯瞰ショットが撮れるようになっていたのだ。その仕組みを活かすべく、巨大なタイトル文字を真上から撮り、最後に風がそれを吹き散らす…という凝ったアイディアが生まれた。撮影条件によってフレキシブルに撮りかたを変えてゆくという押井イズムが、ここにもその片鱗を見せている。

●主題歌とエンディングを担当したのは、男女2人のユニット「樹海」。作詞とボーカルは愛未(まなみ)、作曲は出羽良彰。ちょっとやさぐれた感じのロックでいこうという方向性がまずあり、「映画じゃなくて、アニメ主題歌の感じで。『キューティーハニー』や『キャッツ・アイ』みたいなかっこいいやつを…」という押井監督のオファーを受けて作られたのが、オープニングの『ヒメゴト』だ。曲の終わりの部分に、キャッツ・アイ風のフレーズがチラリと聴けるのにもご注目を。

●インターミッション代わりに「中CM」が入るのは、「6話もあると、お客さんが疲れるんじゃない?」という、押井監督の配慮と遊び心による。自作に出ないのがモットーの同監督が、今回、CM中のテレビ画面に初出演。実はこのショット、当初からの予定というわけではなく、何とかして押井監督を出そうと現場にいた全員が画策した"隠し撮り"の成果なのである。

●本作品の本格的な企画スタートは、06年12月末。シナリオ決定稿完成=4月8日。クランクイン=4月23日(荒野の弐挺拳銃)。クランクアップ=7月11日(中CM)。音楽制作、編集などのポスト・プロダクションを経て、8月29日、イマジカ第2試写室にて初号試写。9月3日、六本木オリベホールでの完成披露試写会、10月の東京国際映画祭公式上映を経て、11月10日劇場公開。企画から公開まで正味約10ヶ月という異例の快スピードで、女立喰師は駆け抜けた。

[監督&キャストのことば]

押井守監督：長い間やりたいやりたいと思っていた執念の企画なので、実現してほんとにうれしい。前作(『立喰師列伝』)が意外にも真面目な作品になってしまったので(笑)、今回はエンターテインメントで、作品の華である女優さんを中心にいこうと。昨今珍しい、女優さんがメインの、女優さんのための映画。30年来、そして10何年来思い焦がれていた二人の女優さんを撮れたので、自分としても大満足です。それから、若い監督さんたちに映画を撮るチャンスをあげられたことも良かった。立喰師という"器"を使って、これからもいろんなことに挑戦していきたいですね。

ひし美ゆり子：押井監督に、初対面の時から「僕の映画に出て下さい」とお願いされてびっくり。32年ぶりに主演で出させていただき、なんと、刺青なんぞも入れてしまいました。穴があったら入りたいくらい恥ずかしいのですが、どうぞお楽しみ下さい。

佐伯日菜子：10年以上前に押井監督から「いつか一緒に仕事したいですね」と言われたのですが、その約束をちゃんと守って下さって感激です。こんなヘナチョコな私ですが、メチャクチャかっこよく撮っていただいて、心から感謝しています。

辻本貴則監督：まず、水野美紀さんありきの作品です。ヒロインものでアクションをやるなら水野さんしかいない、と最初から思っていました。スタントなし、ワイヤーなしで挑んだ本物のアクションをぜひご覧下さい。

水野美紀：最近、私の中で勝手に「アクション強化キャンペーン期間中」なので(笑)、辻本監督に声をかけていただいてうれしかった。二挺拳銃のガンアクションは初めてですが、他の役者さんも「動ける」方ばかりで、撮影がとても楽しかったです。

神山健治監督：押井さんから実写を撮ってみないかと誘われ、せっかくのチャンスなのでやってみました。前作に神山店長役で出ていたので、その後日談ということで。そしてこれは……僕からの安藤麻吹さんへのラブレターのつもりです(笑)。

安藤麻吹：いつもはアニメーションの世界でご一緒している神山監督の、とってもピュアな芝居に感動しました。どことなく懐かしくて、ハラハラドキドキ感も味わえる……そんな、ちょっぴり切ないラブストーリーをお楽しみ下さい。

湯浅弘章監督：今回の作品中、一番の新人で、監督として皆さんと一緒にいるのがおこがましいくらいですが、それでも萎縮することなく、納得のいくものが出来たと思います。主演の藤田さんの魅力を出しきったかな、と自分では思っています。

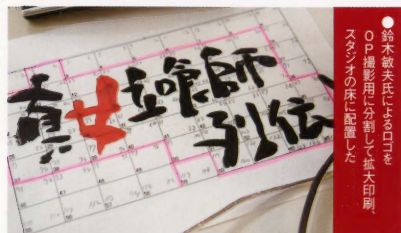
藤田陽子：女性の色気をテーマにしたエピソードですが、湯浅監督のご指導で、気持ちよく、恥ずかしくなく演じることができました。背中に鍼を打ったところも、ちょっと痛かったんですけど(笑)、見どころの一つかなと思います。

神谷誠監督：ずっと特撮畑でやってきて、女優さんを本格的に撮るのは、ほぼ初めて。僕のはヘンテコなエピソードとして異彩を放っていますが、まあこれも、オムニバスならではのバラエティの豊かさということで楽しんでいただければうれしいですね。

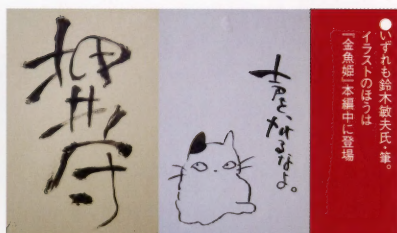
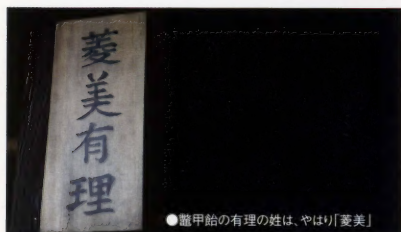
小倉優子：私の作品ではナレーションがすごく長いんですが、暗記は好きなので、覚えるのが楽しかったです。ブルーバック撮影は初めてで、出来上がりが楽しみ。マミのいろんな顔を演じましたので、どうぞご覧下さい。

兵藤まこ：今回は本編ではなく、オープニングのイメージキャラクターとして参加させていただいたんですが、一観客として、とても楽しく観ることができました。女から見ても、ファンになってしまう作品です。

(完成披露試写会および東京国際映画祭でのコメント、個別インタビューなどより編集・構成)

GADGETS

●鈴木敏夫氏によるロゴをOP撮影用に分割して拡大印刷、スタジオの床に配置した

●オープニングを飾るロシア製の名銃「AK-47」（もちろんモデルガン）

●いずれも鈴木敏夫氏・筆。イラストのほうは『金魚姫』本編中に登場

●鼈甲飴の有理の姓は、やはり「菱美」

●金魚の飴細工は、飴細工師の吉原孝洋氏による

●押井作品に夢幻性を加味する「針のない時計」

●『荒野の弐挺拳銃』に登場する酒「OLD SHIBA」。もちろん柴犬の意味

●細かい小道具にも美術スタッフの遊び心がうかがえる

●学食のマブ愛用のベレッタ、カフカ『変身』、そして一輪挿しのタンポポ

●ファミレスに置いてある80年代の定番、ダイアル式ピンク電話

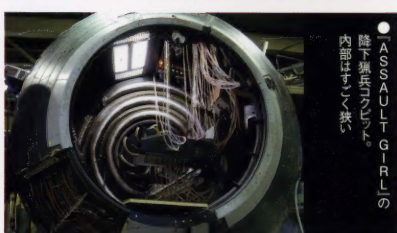
●神山店長の愛車、オースティン・mini。80年代にはタマ数も多かった

●中CMのポスターのモデルは、主題歌を歌う「樹海」の愛未(まなみ)嬢

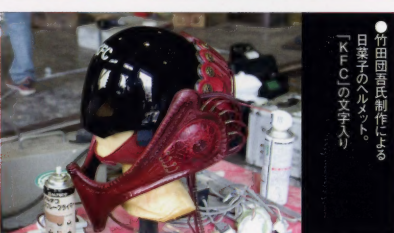
●犬好きの押井監督らしい趣味が横溢、「ダニエルズ・ワイルド・ハウンド」コーヒー

●『草間のささやき』の重要な小道具、イチジクとビワ

●『歌謡の天使』のクレープ屋さん「Cindy's」は、実在のお店

●実際は別場所での撮影だが、神宮前≠原宿のプレート（地番は架空）を画面で使用

●うさっ子ちゃんのユニフォームは、「セー○ーズ」ならぬ「ネイビーズ」。パステルカラーが80年代風

●『ASSAULT GIRL』の降下猟兵コクピット。内部はすごく狭い

●鬼頭栄作氏による降下猟兵「Temujin」のデザイン原型

●竹田団吾氏制作による日菜子のヘルメット。「KFC」の文字入り

●同じく竹田氏制作、日菜子のパイロットスーツ。革製のオートクチュール

真・女立喰師列伝

原作・総監修：押井守

製作：熊澤芳紀・大枝浩之・林裕之
エグゼクティブ・プロデューサー：森遊机
プロデューサー：久保淳

音楽：川井憲次（サウンドトラックCD：ジェネオン エンタテインメント）
音響監督：若林和弘
主題歌「ヒメゴト」&エンディングテーマ「孤城の月」：樹海（ジェネオン エンタテインメント）
VFXスーパーバイザー：佐藤敦紀・神谷誠

□ オープニング

監督：押井守／撮影：湯浅弘章／編集：佐藤敦紀
スチル撮影：坂崎恵一／題字：鈴木敏夫
ケツネコロッケのお銀：兵藤まこ

■「金魚姫　鼈甲飴の有理」

監督・脚本：押井守／撮影・スチル撮影：坂崎恵一／撮影・編集：湯浅弘章
鼈甲飴の有理：ひし美ゆり子
カメラマン・坂崎一：吉祥寺怪人
「戦後思想」編集長 鈴木敏夫、カメラマン 坂崎一の声：鈴木敏夫（友情出演）

■「荒野の弐挺拳銃　バーボンのミキ」

監督・脚本・撮影・編集・デジタルエフェクト：辻本貴則／撮影：湯浅弘章
バーボンのミキ：水野美紀
フランコ署長：辻本一樹
サブ：川本淳市

■「Dandelion　学食のマブ」

監督：神山健治／脚本：神山健治・檜垣亮／撮影：村川聡／編集：植松淳一
学食のマブ：安藤麻吹
神山店長：神山健治（声：内田夕夜）
白い粉の男：渡辺聡

□ 中CM

監督・脚本：押井守／撮影：湯浅弘章／編集：辻本貴則
違いの判らない男たち：神谷誠・神山健治・辻本貴則・湯浅弘章
ポスターの女性：愛未（樹海）

■「草間のささやき　氷苺の玖実」

監督・脚本・撮影・編集：湯浅弘章
氷苺の玖実：藤田陽子
由起夫：和田聰宏
光男：若松武史

■「歌謡の天使　クレープのマミ」

監督・脚本・編集・VFX：神谷誠／撮影：村川聡
クレープのマミ：小倉優子
クレープ屋店長　岡林耕造：池内万作

■「ASSAULT GIRL　ケンタッキーの日菜子」

監督・脚本：押井守／撮影：湯浅弘章／編集・VFX・撮影：佐藤敦紀
FsJ87 "Temjin"（天人）デザイン：鬼頭栄作／衣裳デザイン・制作：竹田団吾
ケンタッキーの日菜子：佐伯日菜子

製作：ジェネオン エンタテインメント／制作・配給：デイズ

2007年度作品／カラー／16：9フレーム／ステレオ／上映時間：2時間3分／英語題名：EAT AND RUN ― 6 Beautiful Grifters ―
第20回東京国際映画祭 日本映画・ある視点部門 公式出品作品
公式HP＝http://www.deiz.com/onna/

「真・女立喰師列伝」劇場用パンフレット
2007年11月10日　初版発行
編集：森遊机（ジェネオン エンタテインメント）／デザイン：閑田透（nix graphics）／協力：デイズ／印刷：東洋化成／発行：ジェネオン エンタテインメント